

会派調査(研修)報告書

NO.

平成 31 年 3 月 20 日

胎内市議会議長

薄 田 智 様

(報告者) 会派名 緑風会

代表者名 渡辺 宏行

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

| | | | |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------|
| 調査・研修 日 時 | 自 平成 31 年 1 月 30 日 至 平成 31 年 2 月 1 日 2 泊 3 日 (3 日間) | 調査・研修 場 所 | ・千葉県木更津市 ・茨城県水戸市 |
| 調査・研修 事 項 | ・千葉県木更津市 タブレットの活用について ・茨城県水戸市 地域資源を活かした観光振興について | | |
| 調査・研修 出席者(参加者) | 渡辺宏行 薄田智 坂上清一 八幡元弘 渡辺秀敏 | | |
| 相手方(対応者) | ・千葉県木更津市 副議長 重城正義 議会事務局 局次長 今関章 議事担当総括 山本弘幸 ・茨城県水戸市 産業経済部観光課 課長 堀江博之 課長補佐 川俣和彦 議会事務局 局長 小嶋正徳 | | |

<調査の結果、または概要>

千葉県木更津市（人口134,944人 議員数24人）

千葉県の内房に位置し、京葉臨海工業地帯の一部であり、都市部と直結する東
京湾アクアラインをはじめ、館山自動車道、首都圏中央連絡自動車道の開通によ
り交通利便性が高まった。東部丘陵地に位置するかずさアカデミアパークにお
いて、研究開発機能の集積が進んでいる。都心から60分圏内と近く、山と海の
自然環境に恵まれており、グリーン・ブルーツーリズムを推進している。

茨城県水戸市（人口269,925人 議員数27人）

茨城県の県庁所在地であり、江戸時代には徳川御三家の1つ水戸徳川家の城
下町として栄えた。水戸黄門（光圀）や日本三名園の1つ偕楽園、また藩校弘道
館は有名である。毎年2月には梅まつり、8月には水戸黄門まつりが開催される。
明治以降、納豆の生産が盛んになり水戸納豆として親しまれている。

<調査の所見、感想>

千葉県木更津市（タブレットの活用について）

木更津市では、民間出身の市長のICT化推進の考えにより執行部で先にタブレット端末を導入し、ペーパーレス化を始めた。議会はその翌年に導入し、事務局と議員の連絡、コミュニケーションのために「ラインワークス」（ラインの有料版）を導入し、会議の連絡などを「既読、未読」で確認でき、また「グーグルカレンダー」を活用しスケジュール管理を行っている。その他に「サイドブックス」（会議システム）や「Gメール」（資料配布用）も利用しながら、常にブラッシュアップしながら利便性を高める取り組みを行っていた。タブレット端末の活用により、ペーパーレス化が進み、併せて会議などでの資料作成や労務時間の削減にもつながっているとのことであった。当市においても、FAXの代替としてタブレット端末を導入してから約3年経過し、タブレット端末にも慣れてきており、更なる活用方法を考えてもよい時期ではないかと感じた。

茨城県水戸市（地域資源を活かした観光振興について）

水戸市では、観光集客力アッププロジェクトを定め、優先的かつ集中的に取り組み、5年以内に一定の成果を上げることを目指し取り組んでいた。その主な内容としては、水戸徳川家の歴史的価値を活かし、偕楽園や弘道館、水戸城址周辺などの観光拠点の魅力をさらに高め、「来て、見て楽しむ」ものにするように取り組んでいた。また、まちの魅力を発信し、来訪者を温かく迎える意識の醸成にも努めていた。（実際、宿泊のホテルには、水戸市の観光パンフレット一式と宿泊者を歓迎する文章が添えられていました。）このようなおもてなしを受けたのは初めてで感動しました。市役所職員が準備したとのことでした。水戸市のような集客力のある観光資源を持つ自治体でも、たゆまぬ取り組みや心掛けを続けていることを肌で感じることができ、見習うことの多い視察であった。

以上